

特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/015245

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 3-15, 19	有
	請求の範囲 1, 2, 16-18	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 3-15, 19	有
	請求の範囲 1, 2, 16-18	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-19	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

- 文献1 : WO 2002/002563 A1 (AMERICAN HOME PRODUCTS CORPORATION) 2002.01.10
 文献2 : JP 5-148267 A (エギシュ デョヂセルヂャール) 1993.06.15
 文献3 : JP 7-309872 A (株式会社大塚製薬工場) 1995.11.28
 文献4 : JP 56-110620 A (持田製薬株式会社) 1981.09.01

(請求の範囲 1, 2, 16-18)

文献1に記載の一般式における R^1 が「置換されていてもよい炭素数6、10および14のアリール」であり、 R^4 が「炭素数1~12のアルキルアミノ」である化合物は、本願請求の範囲1, 2, 16-18に記載の化合物に該当する。また、文献1には、該化合物を用いて癌性腫瘍細胞の増殖及び関連疾患を治療又は阻害することが記載されている。

よって、請求の範囲1, 2, 16-18に記載の発明は、文献1に記載された発明であり、新規性及び進歩性を有しない。

(請求の範囲 3-15, 19)

請求の範囲3-15, 19に記載の発明は、文献1-4のいずれにも記載されておらず、いずれの文献の記載からも容易に想到し得るものではない。

よって、請求の範囲3-15, 19に記載の発明は、新規性及び進歩性を有する。